古刀銘盡大全

初心利手引燒刃部類分

忠鈍見分　名劔吉劔之論

680
.05

Ogi Iori + Sugahara Hirotaka
Koto rekishi-kuketsu shi 古事類苑
680.05
内閣文庫藏書
7637
Freer Gallery of Art
Washington, D. C.

古刀論畫序

夫刀劍之神
[illegible]
靈器なりわ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

和一流兵法ハ古流ニ
そむかず
!!
ま亀鑑ニ
そなえ
寛政元己酉
羽林侍従藤原朝臣

目錄

壹卷　初心目利手引　目利心得之次第　研之差別
　　目利傳之事　刀劒撰求事　刀劒心得事并氏之次第
　　焼刃部類分　小脇指造事　刀劒定法
　　古刀新刀差別　名劒吉劒事　忠銘見分之次第　諸鍛冶心得事

貳卷　諸國鍛冶系圖祕談抄　東國之部

參卷　右同斷　西國之部

四卷　番鍛冶三通鍛冶同銘寄　鍛冶上中下并年數　古代名物劒

五卷　刀劒見様之事

六卷　右同斷

七卷　焼刃中心押形并彫物

八卷　中心銘押形　東國之部

九卷　右同斷　西國之部

終

凡例

一　茲の古今名盡と云ふ慶長十六年の寫ありて其源を今此新刀と名るより慶長以前の作と集る故に古今名盡と外題す今改て古刀銘盡と改ぬ後の作を新刀と呼ぶ新古の別有によりて書札号と改ぬ

一　焼刃部類分ける所以は初心のわきまへとなるべきためなり

一　忠銘打て見てくらべ知べし

一　雨龍の倶利迦羅龍なり

一　庵（いおり）棒（ぼう）と記るは錬の事にして丸也（まるなり）と云ふ記也

一　中心（なかご）先の事茎（なかご）ともふ記也。栗尻（くりじり）などゝ計（ばかり）志るす忠のことく

一　系圖（けいづ）親子（おやこ）師弟（してい）の次第（だいり）を用（もち）ひ又他國（たこく）に住（ぢう）する者（もの）或（あるひ）は後（のち）の末（すゑ）になり又（また）流（ながれ）を汲（くむ）又同時代（どうじだい）も同流（どうりう）の別人（べつにん）なども多（おほ）く又一百年八百年の（ひだり）ほどにて載（のせ）一百年の

所ナカ田今ニ刄ヒテ道ヲ〻要ク〻ル〻モ有テ〻新刀ノ系図ノ書ヲ
張ウモ有テ〻新刀ノ系図ノ書ヲ改テ推量ヲテ〻
一長義○雲次○雲重○金重○金行○壽命○寶壽ノ數ヲ記ス
安ラヒヲ〻ヲカラ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻
一諸國鍛冶銘救九四千七百九拾余ニ及ヘ系圖ノ中ニ其ノ同銘
二人三人又ハ救代有リノ多〻〻或未詳書ニテ不記鍛冶遠〻
出ル事有後ノ好士可要之
一慶長年中ノ鍛冶九百余人除之但銘ヲ新刀銘書ト知ヘシ
其鈷ノ時代ヲ以テ考ヘ分ツベシ〻
一俗説俗字ヲ云ヒ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻
鍛冶ノ流ヲヤヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻
スルノ如此書ヲ見ル人道ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻
ゲヒヲ論ヒヲ〻ル事ナル〻旦ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ張ヲ正ヲノ〻ル〻

古刀銘盡大全巻之一

○刀鈷目利大意

音ヲ学ヘ〻ル其形ヲヲ〻ル其ノ意ヲ看ル事
天地ノ自然ノ理ヲテ賢ヲ〻ル法ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻
ヒヲ〻ル〻ヲ成ル也。目利ヲハ〻ヘテ一ヶ度見テ〻ル拙ヲ目覚ヒテ。ヲ〻ヲ〻ヒ
夫ヲ知ルヲ〻ヒ〻ル其時ノ変リ物ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻
ヒヲ〻ル〻ヲ成ル也。目利ヲハ〻ヘテ一ヶ度見テ〻ル拙ヲ目覚ヒテ。ヲ〻ヲ〻ヒ
夫ヲ知ルヲ〻ヒ〻ル其時ノ変リ物ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻
後ウケヲ見テモ能ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻
指別見ヲノ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻
見ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻ヲ〻ル〻
刃

多く成り。なまく変り生来有是を細く分つを目利とする初心
見分安きたとへ。ひらほそ一押形の図を以く奥ふかゝる

○初心目利統計古の次第

一先国づくしの五幾七道を打つもりてお後り生ずる
一大和うら治承年号時代を定めてみそ也べし其物ふかゝる
一焼刃忠の作を始別てうら一切生ぜず能
一凡目利するの先銘を吟味ふなく〳〵ゆうを後うう思〳〵てみそ也べし
くわかうこと枝焼刃をさし〳〵表銘元うう言ふ刃と切生ぜず能
見て又裏の方と同じくらくうくうくう

地決の気味有おもでも乗くる足こうる紀掛法ようよく
其足人子のかいる事又多し
一説あるりの忠を色。作の目利して後小家こと合く精古こうる
事一有。始目利しる作の他をいちで若くる中も多くて的中
もくから大体宜う囲遠ひくるる。又中りたる同お成うの。損ふうて
二度やこ度もみ。中るあるひい公。ふつうこ域へ重て定ある足具を
不図なる目利悟べし位をえたちが決考こ改くるる指成目利皆
おくこうざる所こひしく法こ
的中すの迄なる人的中もくる
上のものことする公とるてめこ
無一功こ
依て此こ

也こ云へと言ふべし一ケ足目他へ有まで紀掛孔据ふいこばる
事一之指の宮小忍こ事なく
其人揃ふかいるやめく。かう
只級の一まるさおふうく安て考へるできなり

一あるひい行ち目利を徳中お定ぐる紀数たまくある是を
目利知業こて言べし余人こ足其こ作銘定こべ行好
ゆても変しがる紀やどのるこをあるのこ是を事珠の目利ち
侍もふこされ已う指易の他をもつと定こく言ふ杯あり
行後いう紀事悟じできなり

一趣こてすぐ双い定うてすぐ双指の目利を紀双もいい乳双
多こ方の目利すべし一番お有出来を足辺こうた始こ目利
する事こうふしかべ定法の如事此他をいひて次こくく
足辺こる時い番なる如来をる目利する事ひり。なこくいこで
長谷部一国重の巾せふく造すぐ成組刀の。ふつうや紀こる我
お人目利こる一人を長谷部こ二人いお物廣正こ云不中こ言

二つめ不格好（カクコウ）遠（トヲ）き先（サキ）を不審（フシン）いふうち二度（ニド）め不審（フシン）いふ時（トキ）造（ツク）りもれ一度（イチド）不審（フシン）いふ時（トキ）なくてすむ支（ササ）へ又（マタ）あの日利（ヒリ）にて二つめ不格好（カクコウ）是（コレ）を除（ノゾ）く金（カネ）滅（ヘ）ればよし

四人（ヨニン）参（マヰ）らん意（コヽロ）あらば手（テ）の下（シタ）へ参（マヰ）るべし

○日利心得の次第

一永（エイ）久（キウ）の日（ヒ）作（サク）の法（ホウ）中（チウ）を取（トリ）て仮（カリ）に定（サダ）めたる忠（チウ）の字（ジ）を中（チウ）とす。

此（コノ）中（チウ）を全体（ゼンタイ）刀鍛（カタナカヂ）の日利（ヒリ）を左（ヒダリ）の筆（フデ）にて書（カキ）抜（ヌキ）て焼（ヤキ）刃（バ）を焼（ヤ）く。やはれ筋（スヂ）の如（ゴト）く。

善悪（ゼンアク）ありて是（コレ）も有（アル）又（マタ）消（ケ）る日（ヒ）あり是（コレ）を分（ワカ）つ。

並（ナラ）て上（ウヘ）下（シタ）さまり能（ヨク）有（アル）ものなり。

なるさ脈（ミヤク）治（ヂ）あるさ有（アル）。是（コレ）を、くわしく定（サダ）むる時（トキ）は、

ようて初心（ショシン）の日（ヒ）作（サク）一度（イチド）に其刀（ソノカタナ）の出来（シユツライ）り能（ヨク）忠（チウ）を写（ウツ）すべし

出来（シユツライ）も忠（チウ）も指別（サシワケ）足（タラ）ず成（ナ）ほろう物（モノ）ある不（ハ）の有（アル）のなれ共（ドモ）。切（キリ）ついたながらに又（マタ）指別（サシワケ）の下作（シタサク）をも定（サダ）めおくべし。

日利（ヒリ）の大体（タイテイ）上作（ジヤウサク）の日（ヒ）なり。

一元（ゲン）すく刃（ハ）の足（タラ）もあり。

当麻（タヘ）。包永（カネナガ）。千手院（センジユイン）。又（マタ）行平（ユキヒラ）。長光（ナガミツ）。抔（ナド）。申分（モウシブン）なくして。信国（ノブクニ）。吉則（ヨシノリ）。テンカイ。尻掛（シリカケ）。景光（カゲミツ）。雲生（クモヲ）。金剛兵衛（コンゴウヒヤウエ）。高田（タカダ）。金房（カナボウ）。其外焼刃（ソノホカヤキバ）の不（ハ）足（タラ）ず無（ナ）き。

一扨（サテ）も足（タラ）ずべき。青江（アヲエ）。の類（ルイ）。小丸（コマル）。実（ジツ）ふさ古備前（コビゼン）も中備前（ナカビゼン）も有（アル）又（マタ）三原（ミハラ）。波平（ナミヒラ）抔（ナド）其外（ソノホカ）さまざまの足（タラ）ず。のこぎり刃（ハ）。おまさ。郡（グン）内（ナイ）不（ハ）善（ゼン）。他（タ）小足（コタラ）ずあるを其（ソノ）ままの刃（ハ）文（モン）と足（タラ）ずと足（タラ）ちがひある事（コト）有（アル）ようくよく足（タラ）ずべし

一のこれ丸（マル）と名（ナ）乗（ノル）りの出来（シユツライ）津（ツ）浦（ウラ）。窟（クツ）をてこまくおりせいこでも支分（シブン）云（イフ）宗一（ソウイチ）抔（ナド）其国（ソノクニ）師（シ）伝（デン）の号（ナ）別（ベツ）を分（ワカ）つの不（ハ）なり

二丁子乱い番瀧治の数一文字乱れ込み沸あらべき吉家。定利粟田口来國行。國俊。抔く見る沸すく好く匂ひふつくい備おの之乃直し小丁子にめくれ古伎おく京と弥足歩き抱あり一ぐのわい伎多。宝く多し又い大和。加賀。石州。伎後ぎ団或を宇津。宝寿。波平。

一青江い乱えそも小足入そも。さらむ有りのなり九文字目乱り一文字も乱えさらむ有る多し

一乱さつく焼刃い上飛ホなし中低ホ下ホ不低のひさつく一向ホ

一文字も中程より上双房い乱すくなき事有む来國行

一國俊も小乱り多し匂ひ深く匂ひ口明き沸すくなく匂ひ

一徒おのりの元そ多く乱まえて乱すく多く出来る拘多し

一其の外物来かりといふの乃あるものなり

一同時代ホ同治の別人有或い時代遠くる有又時代、似せこと有

一脇物のる或い脇うの脇くる有又同時代別人の脇くる

あれば。さの之宝くるもかぶ格好もおうう悪し。なる

一三品板目のホホ梨肌といふ肌乱れ映り立ちの梨の切口のごくなるといふ

けんざん肌といふ乾山焼ホ似くる多くなり。乱のおすべれる拘

又板目いうく渋つまりて澱む宝く月尺西る中に沼肌の脇うくを

上低く寸又板目のおうく細く沸そぐ刷毛ひ状入る時白けるむあり上低くなう又手低の白けるを渡り味

かうく不宜く又焼悪し。孫ホ安し。其ホ本立乱ひうくいおくるむ多くひうくい

脇の味和らかにて脆のすぐれざる物多し又松の実ほど又ぬるさはなくくに月ふた夜もありて一向焼及のうまからざる物あり。柳あり。松の又一種ありのごとくにて一向焼及のうまからざる物あり。ふじもそうも有。用ふたる松茸よりは元竜の次ぎ記物良し。地及ちがふ松茸又違ふ物を用ふるときは松茸を那ぞれぐらく混雑うたるもの有まじくなり

一上代中代かぐら松茸と別あり。多くは春の日和のよろしき時おのづから出るを見ていまだ秋の日和ほど夏の日和ほどなくくに時々出るもの有

一刀及たるをすぐにせんと及をふむる事あり。脇治脆をとりくに洗脇のごとくにて刀の汚れを去らんと先ず又裏よりも表よりも先ず刃を以て切先までくに格好すぐに脇も物脆の実ごとくそ用ふ。疵あれば切先折る事あり

一刀すぐく脇と及て有る事あり。脇治脆を火ふ入刀れ物のごとくにて双の方よりあてくに洗ふ時くに切先までくに格好すぐに脇も物脆の実ごとくそ用ふ。疵あれば切先折る事あり

一焼直し物脆を火ふ入刀れ物のごとくにて双の方よりあてくに洗ふ時くに切先までくに格好すぐに脇も物脆の実ごとくそ用ふ。疵あれば切先折る事あり

○刀劔必得の事 并疵の次第

一刀及たるをすぐにせんと及をふむる事あり。脇治脆をとりくに洗脇のごとくにて刀の汚れを去らんと先ず又裏よりも表よりも先ず刃を以て切先までくに格好すぐに脇も物脆の実ごとくそ用ふ。疵あれば切先折る事あり

一刀すぐく脇と及て有る事あり。脇治脆を火ふ入刀れ物のごとくにて双の方よりあてくに洗ふ時くに切先までくに格好すぐに脇も物脆の実ごとくそ用ふ。疵あれば切先折る事あり

一焼直し物脆を火ふ入刀れ物のごとくにて双の方よりあてくに洗ふ時くに切先までくに格好すぐに脇も物脆の実ごとくそ用ふ。疵あれば切先折る事あり

地狐のうれかそうる有元是をすうこれいかゝ
ほうしいやしくも義ちぐうそのこと地狐あれゝく。くんろぐむ天蚕も
蚕おのう渋かうゝ物之双かうくして双つやかくうかくう沸いうゆも
ちうけて沈ひりのなくの狐ふうく狐の地の宮をたゆく焼虫ゝの
ふまゝくいやゝくおくむと化の眼の宮をたゆく焼虫ゝの
よく虫ちうる有孔杯をうる有いづまうる九のゝ杯
年数式七十ゑも去ゝくゝ虫去ま。うる有いづまうる九のゝ杯
ほう何うゝうゝ死杯なれいうゝ杯や用ふちび又切先の焼双ちん
なうとやふ入曲うゝ先だうう二ゝす焼虫ゝて切先付うる有まくい
かつうなくおうしの間。品ゝくゝ焼虫ゝの狐ふうく曲うる杯又角る杯之何ふ横ふ下
二ゝすのうゝ焼双の今うゝ焼虫ゝの狐ふうく曲うる杯又角る杯之何ふ横ふ下
一疵の筆双切ゝうゝかぐうゝれ狐おうくゝうゝうゝ焼虫ゝの狐ふうく曲うる杯又角る杯之何ふ横ふ下
○月の梅。鳥のゝ。鳥曰。すうゝ焼虫ゝの狐ふうく曲うる杯又角る杯之何ふ横ふ下
○梅ゝれ。立ゝれ。立何ゝゆうゝ焼虫ゝの狐ふうく曲うる杯又角る杯之何ふ横ふ下
○ふくれかのうゝ狐狐の御ゝて焼虫ゝの狐ふうく曲うる杯又角る杯之何ふ横ふ下
出うふうれゝ押うく有うる有さうれすれがかのうゝ焼虫ゝの狐ふうく曲うる杯又角る杯之何ふ横ふ下
洗うさの狐うく吟味すべくゝ焼虫ゝの狐ふうく曲うる杯又角る杯之何ふ横ふ下
○ふゝくゝ地うの狐の仕合ざる地う安ゝ上位う有ほうさうう
○ああ○ゆうゝ石姫ゝ杯の狐ふうく曲うる杯又角る杯之何ふ横ふ下
○双のおくかのうゝゆうゝ国宗。守家。ゆゝ狐ゝそうの狐ふうく曲うる杯又角る杯之何ふ横ふ下
○匂入切ゝふ焼双のさうひのうゝ焼虫ゝの狐ふうく曲うる杯又角る杯之何ふ横ふ下
ううゝ○ふうゝ焼虫ゝの狐ふうく曲うる杯又角る杯之何ふ横ふ下
ふゝくゝ地うの狐の仕合ざる地う安ゝ上位う有ほうさうう
ふゝくゝ地うの狐の仕合ざる地う安ゝ上位う有ほうさうう
○地ゝて双の杯むうゝ有ほうさうう
切ゝうる有ふうれすれがかのうゝ焼虫ゝの狐ふうく曲うる杯又角る杯之何ふ横ふ下
○双切。ゝうゝ有ほうさうう
石ゝうゝ地うの狐の仕合ざる地う安ゝ上位う有ほうさうう
当ゝれいなゝ○ゝ有ほうさうう
行狐ゝうゝ地うの狐の仕合ざる地う安ゝ上位う有ほうさうう

りのなをへずこむ○鍔のこのへ双切こうも不宜こいふ也理有
又双切へふ不可ふ不可ふのこのなれ。この双切へうも不宜こいふ也理有
お可生ふ戒時おのこをふ思のふ
いつまでを元生定ぐ上坂こ○ゆゆ
すくも。地ぐ○こて場ぐ刀を打合害双切。この不こ可こうくおる
事ー安ー一ー多事刀をすりこる所こ
ふうく論ぜん。梵字彫物も甚こ
全体我ふこ。ゆゆむ又ふて堅それ疵あくたおてこの
是を源信の大事こいふべ
○矢月こいの事ぜ納の先ふて窮こる如こさりのあり戒切ふく
矢先のゆこる所こ切込こ
○切込これ又戒切ふく切込てる所こ
八種九種まぐ心必。切込ありひ
ありうくくふつべ

○刷こ多の金体をあーこれいむこまで生なる者を
擇んで其優をを打ずべ刷師其陣をいこらべ鍛の仕ふ
いる所をを又こ一ふこ通ぜさる時こ又業度も生ー数日こふて

○刷の事

面こも書ふさ人こふこれおをたぐ○を以ふ
実を合多生ぐ不宜こふべこと。足谷のおーこさと猶ふはよ
家こさたこを実ふなこと。ゆーー
ーてかこたこも者ゆこふる道こ称こさなく
小疵の有こふ多ー。無疵成いまこ
双切も宜べーー双の。こばこてこれおをこ
双切の表こばこてこい。先こべこさ
みてこも打の理ふべ同意成べこ
抱こ刀面ふ戒ふこれ双こばこ
幸こもふく数戒ふ変んべ強幸ーあり是をこみふく考へ
もべこさ新刀れ和いーふく多疵を好む心なり

甚緊要一ぞうの小仕ろる迄の繊工ふあらば優を求ろるも
忍ふ程の細工をなさゞ砌の度数を減ぜんが為なるべし
かゝる人ても有おろと。おろそふ仕て級の数も減ぬ
大切の道を欠杯再び砌直ふ仕ろさ
焼及堅ろさ共を欠ふくあるの拵ふろの拙あろ拙ありて
押して及の無ふろをもいとらべし又お押て近く疵とろ。ふてもて
細工のまろを。いとひて有の侭ふ砌ろ又ハ継えと砌下ろて砌数を
かまろべし地及ろ子猶の承斗を押ふく。もふと有杯ろる砌師ハ皆
小ろろざの角。おゝしの形。御え。及の周。捨ろふ砌師のえろむ迄
是をふく猶ふく級の位あり。其ふの仕ろハ砌師の害ふらけふ
猶ふくあるひハ二尺三尺の刀あり其侭の侭二すこす完の刀ふく疵
忍れハいろ〳〵の刻りわ方を。一挽ふ入ても多ふ往ろる。其間ふ及のふ
つ色。ふれて面く成。及のふを疵ふてもふろ物ふ是をも
ふふく夜合也仕ろると砌のふ

同じ次の好士野守といひて刀劒の目利ㇾ仏を入魂んの仏のようう
万人乃のなを人とよぶ。しく細川二位云ふ法ㇾ云ふ仏を法つぐ
たくう之好家の沙も子法ㇾ之ㇾ目利の仏も今ㇾ
法ㇾ之仏ありとうぐる其何ㇾ古風ㇾ
云ふ一刀劒ㇾ之ぐ後拙ㇾ
其時代なり一光悦の孫光甫ㇾ
ㇾ刀劒ㇾ優ㇾ安く似ㇾ
号ㇾ刀劒ㇾ大ㇾ
今文用ㇾ
位ㇾ
幸ㇾ是又多し。一遍ㇾ
劒の仏ㇾ
劒をうくして同好士家ㇾ
第ㇾ仏ㇾ
たる仏の出来ㇾ
ㇾ
ひろく行ㇾ
ㇾ
たれぞㇾ
以仏信ㇾ
同利用ㇾ
九州。

刀劒ㇾ目利ㇾ
さほど秀ㇾ
ㇾ
たる仏の出来ㇾ
ㇾ
ㇾ
劒をうくして同好士家ㇾ
第ㇾ仏ㇾ
ㇾ
たれぞㇾ
以仏信ㇾ
同利用ㇾ
九州。

○叙を撰求る事

一日利のよくも有悪くも有ことを弁へ多くの人と交りて日の利らざるを察し又よく変通して言ふ所なうも無くして嘘言をつくも有高人の己が叙を褒んがあまり悪くいふも有。又いろ〳〵偽りて其日利己が私をまじへ其人の為にもならざる先祖伝来の叙。又は其人の指料なれば甚屓〳〵しく書ものあり。又は大体よき人の自慢〳〵又は其人の為にもならざる事を書ものあり。是等の叙は皆真偽を雑ざるたとへ数十人日〳〵他の日利する力ありとも其叙にはゆるさざる処有。然れば其叙をば其人の為にもならざる事を書ものあり。是よりの叙を偽りたる忠を尽さざるの罪人なり。是等の叙を取扱ふ処有。然れ

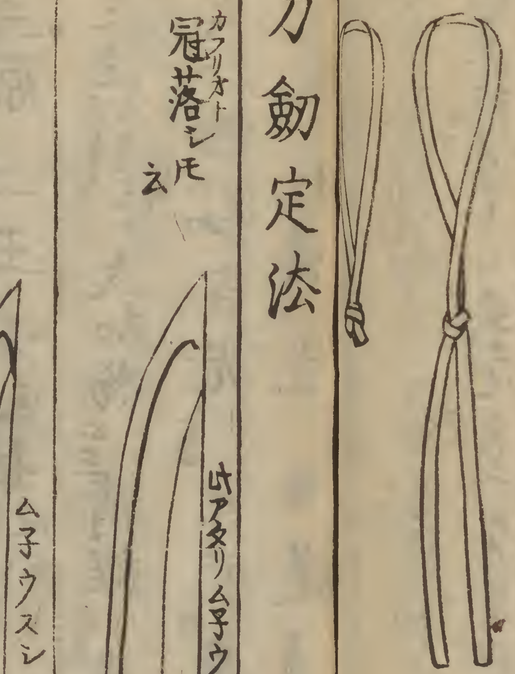
服等こゝろよべ〳〵左も指とも種の物といふ事と記せし刀も刀も拵等其ふるい劍也柄鞘を別て刀と指ざす物ゆゑ敢ていふ抜ざる物と只今を指ざすなれば甚宜ふ注ざさりのこと刀と文字ゐ字彙に曰都高切倒平聲兵也 釋名刀ハ到也以斬伐到其所也又錢也名錢為刀者以其利於民也又小船曰刀

錢刀二有二種契刀錯刀○劍。孔周三劍。含光。兼影。雷陳

呉ノ太皇帝ノ寶劍六。白虹。紫雷。辟邪。流星。青冥。百里。或干將鏌鋣ノ劍等數品有。洞冥記ニ曰刀ハ黄帝首山ノ銅ヲ以始鑄ル其形如何昔古ニ刀ト云字ありて今の刀有ざされど日本の刀い後の形也さのみ目利の當用おあらざれば置之

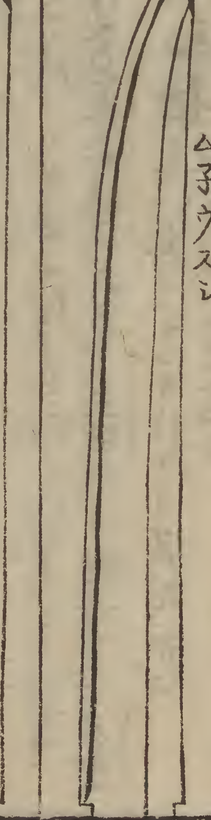
下緒を付る事

かくのおとく指ざる時の表をとろ後ろ



○刀劒定法

鵜首造 冠落シ云



平造 造スグ成モ有 造反タルモアリ

ムコウブクリ 切先浦造 横手ノナキ也 但是ニ次ヨリ横手ヲ付タルモ有

ムシノギ造リノ

ムアタリヨフクラト云

ムコウブクリ 浦造ニ通ル平造ニ通ル刀ヲ名ヅケテ云

ムアタリムコウスシ

ムコヨリ下ムコ厚スシ

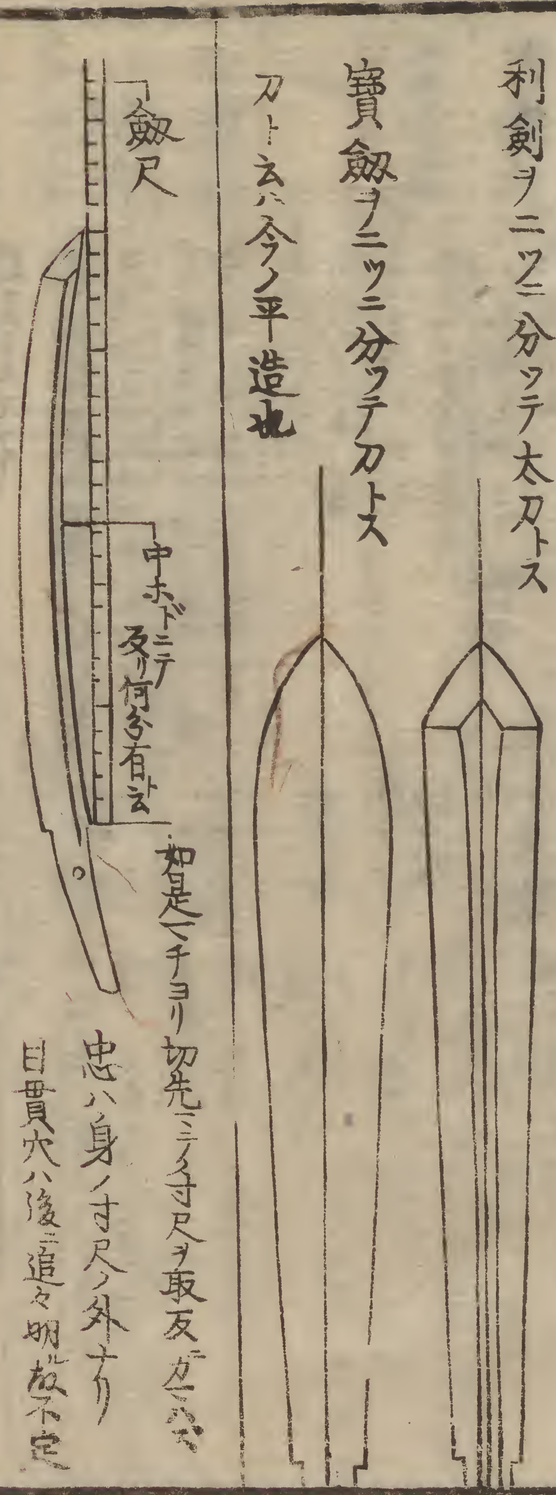
ムコウスシ

利剣ヲ二ツニ分ツテ太刀トス

寶劔ヲ二ツニ分ツテ刀トス

刀ト云ハ今ノ平造也

劔尺



上作ハ双ル白ク地鉄ニ冴シ　中作ハ双ル青ク地鉄黒シ　下作ハ双ル黒ク地鉄白シ

右鉄ノ出ル所ノ国ニテ作ル有ハ鍛冶夫々ノ伝有

又永延ノ頃ノ古作ヨリ元暦正慶ノ頃迄ハ作又悪永ノ後ノ作抔追々其時代ヨリ次第ニ劣ル之

鎬高物　三原　二王　大和物

樋廣物　三池　大和物　二王　清經　光忠　雲次　助真　但此外モ希有ヘシ

重厚物　大和物　吉光　景光　景政　但此分モ重ク厚カラヌモ有シ

又三池　信國　左　西蓮　其外希ニハ厚キモ有ヘシ

彫物中寄分　大和物　相州物　石州物

道永　法成寺　景長　廣賀　寶壽

腰双有之物　京國　經包平　正恒　則宗　文字類　長光類

其外備前ニ多シ傳ノ所ニ委ク記ス或ハ道村　平安城志賀物ホ

丸棟有之物　長谷部　三原　三池

外ニ正宗　助真　青江　國安　長光　包平　友成

信國　冬廣　二王　粉川物　加賀四郎

三ツ棟。其棟モ云京大和相州抔并ホ州傳ノ作ニ良外ニ希也

ムネヲロシ　大和物ハ焼ツヒル実ハ丸シ　彼ホイトカル也

太鼻形ノ如ク中モ刀ヲ打タルモ多ク有ヘシ

相州抔ハ浅ク焼庵ク〳〵ツラ〳〵ト乱ル事一ト多シ

地府　地ノ〇ノ如ク〇アリ　地乱ト云ル品ホ云之

肌　地ノ如ク〇ノ如ク正目板目或ハ杢乱ト乱ケ〇ノ乱

数品上中下其國〳〵ノ風アリ委ク乱ニ云之

移リ　平ホ双ノウゲノ振ルノ彼ホ多クアリ之ヲ

ハゞキニテ有ルヨリ善悪抔ヲ云ニ専ラ之ヲ

沸（ニエ）

地ゑといつゝ平文有俗ようゑ大小有よ俗ようゑ書飯ニヤウクワ
なれど下俗ようゑ有其ゑ國長俗ようゑ中下格ゑのゑ
下俗の沸ゑ有ゑ國ようゑ中下格ゑのゑ
がくゑさゑひ（ニホ）ゑ上俗の沸ゑゑゑのゑゑ
如ゑその也双のゑ
大ゑ沸ゑ和なゑ沸ゑ有ゑ焼ゑひゑまゑひゑゑ
双のゑ焼ゑひゑ双ゑゑ
めゑゑゑひゑ尺而ゑりのゑゑ

いおがま

地有のゑ如中ゑ一俗又細ゑ沸ゑゑゑ焼双乃
ゑ焼ゑひゑ多ゑ如ゑゑ上俗ゑ有

ちけい

双の上焼ゑひゑまゑ
ゑゑ

双の中ゑゑゑ如ゑ第ゑゑ

ゑゑ

○焼双之圖ヲ以テ凡作ル分部類、但小ト記スハ小俗名ナリ
希ト記スハ希ナル物ヲ云

京				京				大和	
吉光 上々	國吉 上々	光包 上々 カヘリカシ	新藤五 上々	宗近 上々	来國行 上々 希	吉則 中上	當麻 上々	包氏 上	
				久國 上々	来國光 上々	長谷部 中上 希	有俊 上	テンカイ 中上	
				則國 上々	来國次 上 小 希		千手院 上々	尻掛 中上	
				國友 上々	来國俊 上		保昌 上 正貝多	金房 下	
				有國 上々	了戒 中上		包永 上		
				國光 上々	信國 中上		包利 上		

倫前

吉用 上々
義光 上 希
末倫前物 下
忠光 則光
行平 上々
定秀 上々
左 上々 小
左國弘 上
青江 中上
金重 中上
中嶋来 中上
法成寺 中下
三原 中下
冬廣 中下
二王 下
入鹿 下
清光 下
加賀四郎 下
此外希ニスグ双ノモノ多クアリ

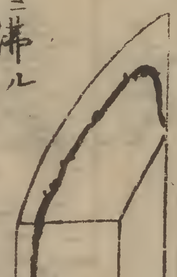
諸國

真長 上
長光 上々
雲生 中上
雲重 中上
景光 上
政光 中上 小 希
祐定 清光
師光 中上 小 希
守光 久光
感景 中上 小 希
其外數人アリ
吉昇物 中下
行光 上々 越中
山内國經 上々 小
兼氏 上々 希
則重 上々 希
西蓮 上
實阿 上
三池 上
延壽 上
行平 上々
定秀 上々
真景 中上 水門
顕國 中上
貞末 中上 備中
千代鶴 中上
景長 中下
宇津 中下
嶋田 中下 備中 希
海府 中下 小
廣光 中下 希
信長 下
宗次 下
波平 下
道永 下
辰房 下
高田 下
金剛兵衛 下
大石物 下
關 下
吉光 中下
宇津 中下
冬廣 中下
桃川長吉 中下 亂
同續吉 中下 亂
壽命 中下 希
月山 中下 奥州 出羽
波平 下 希
大和モノホド長ク此肌ノ作モアリ
善定兼吉 中上
波平 下
金剛兵衛 下
景長 中下
宇津 中下
二王 下

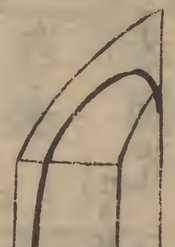
倫前

助平 上々
吉用 上々
包平 上々
是助 上
吉包 上々
雲次 中上
友成 上々
雲重 中上
行秀 上々
助國 中上

スグ双ニ小乱雜 白ヒカク細ニ沸ル



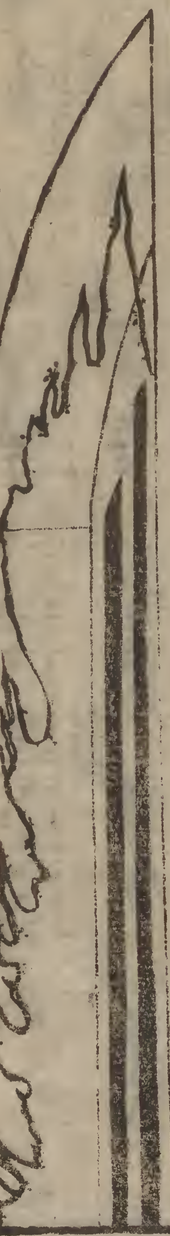
スグ双ニ小乱雜



スグ双 肌アヤ杉ト云

京
久國 上々
行平 上々
西蓮 上
大和
千手院 上々
千ノ手院 中上 佛ル モ
宇津 中下 筑中
貝三原 下
スク双ニ 小乱雑 佛ル
國安 上々
定秀 上々
三池 上々
吉家 上々
安經 伯キ 上々
吉光 中上
國清 上々
正恒 上々
爲継 中上
来國行 上々
國俊 上々
真守 円 上々
延壽 ヒゴ 上
包永 上
来國光 京 上々
テンカイ 中下
中嶋ノ来 中上 小
尻掛 中上
保昌 上 希
吉井 ビゼン 中下
景長 イナバ 中下
嶋ヲ スルガ 中下 小希
長光 ヒゼン 上々
景安 ビゼン 上
月山 奥州 中下
波平 サウ 下
高田 ブンゴ 下
一来 ビンゴ 中下
友成 上々
行秀 上々
景政 上
真守 上
師光 中上
重真 上
兼光 上
近景 中上
元重 中上
雲生 中上
景光 上
スグ双ニ 廿ノ心乱雑
康光 中上 筑中
青江 中上 筑中
正恒 上
三原 ビンゴ 中下
辰房 下
倫前
スグ双ニ 鼠足 嵐ノ足跡ノ様ナル小足ヲ云
来國光 京 上
了戒 京 中下
助包 ビゼン 上々
雲生 ビゼン 中下
雲次 ビゼン 中下
延壽 ヒゴ 中上 筑中
青江 中下
高田 ブンゴ 下
道永 イブセ 下
波平 サウ 下
倫前
逆乱 サカ ニホヒフカレ佛ル モ有
行秀 上々
秀光 上
助吉 上
正恒 上々
二文字 上々
同吉岡 中上
吉房 上々
景秀 上
助光 上
真守 上
長義 ノタニ心有 上

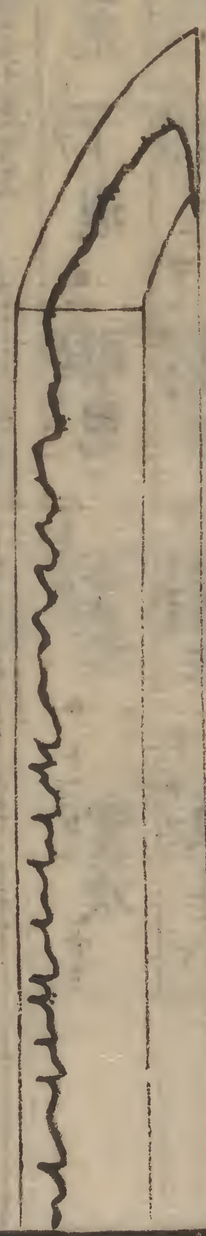
廿カ乱（ニカダレ）



- 備中 青江 上
- 備中 元重（ゲンヂュウ） 中上
- 備中 元山 中上
- 貞経 中上
- 千代鶴（チヨヅル） 中上

其外大出来乱ルヽモアリ

鋸（ノコギ）乱

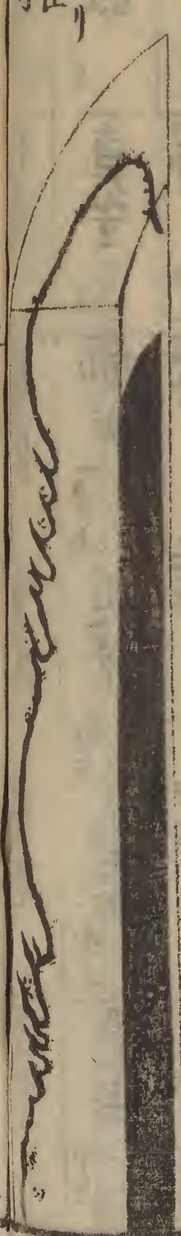


- 義光 上
- 景光 上
- 景政 上
- 秀光 上
- 義景 上

備前

- 基政 中上

鋸（ノコギ）又（マタ）雑（マジリ）ノタレ

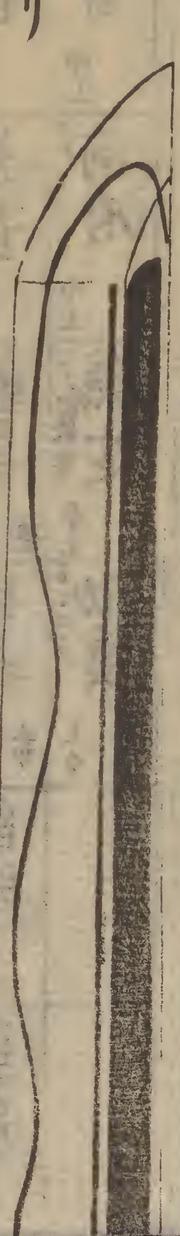


- 兼光 上 小
- 義長 上
- 義光 上
- 倫光 上
- 秀光 上
- 義景 上

備前

- 師光 中上
- 政光 中上
- 基光 中上
- 基政 中上

ノタレ又（マタ）悩（ナヤム）沸ルモアリ



- 倫光 上
- 秀光 上
- 義光 上
- 長義 上 沸
- 平安城 中上 小乱交
- 兼友 中上

備前

- 盛景 中上 少タン交
- 友成 上々 沸少タレ也
- 古家 上々
- 来國行 上々 希
- 中嶋柔（ナカジマヤハラ） 中上 小

京

- 安綱（ヤスツナ） 上々
- 國資（クニスケ） 上
- 則國 上々
- 古貞 中上
- 長義 上 沸

嶋田（シマダ） 中下

- 海府（カイフ） 中下
- 冬廣（フユヒロ） 下
- 壽命（ジュミヤウ） 下

ノタレ乱

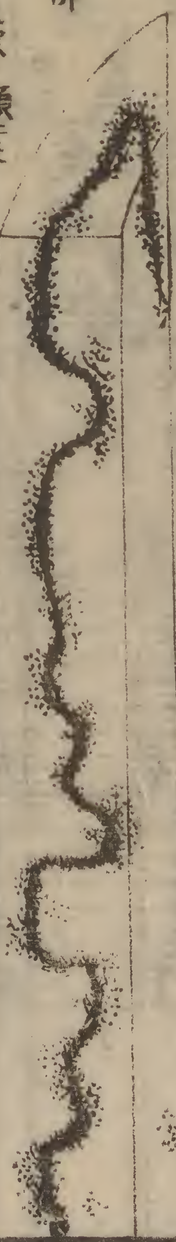
沸スナガレイリテ等アリ

同

筑中紅 義弘 上々	正宗 上々	同	貞宗 上々
筑中 則重 上々	京 来國次 上々	東 倫國 上	行光 上々
			左 サカ心有 上々
		京建武ノ比 信國 上	志津 上々
		石見 直綱 上	

同

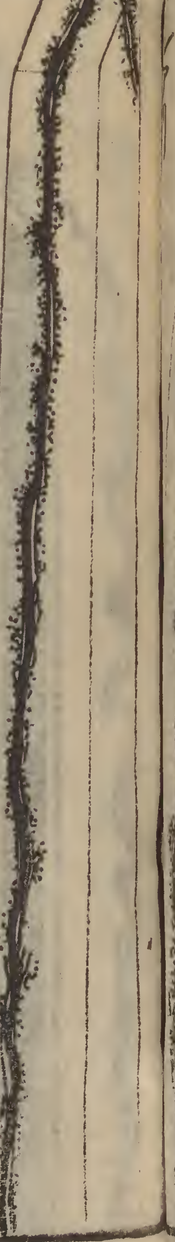
ヨク沸



左位ヨク似正宗貞宗ノ類ニモアリ			
ヒゼン 長義 上	ビゼン 兼長 上	ビゼン 義景 上 希	ビゼン 盛景 中上 希
スルガ 嶋田 中上	アハ 海府 中上	無之 中上	カベシラ 助真 上々 希

ヨク沸

ニホヒフカク



			左 國弘 上
			カベ 首景 中上

江義弘

正宗

			貞宗

其外左志津則重来國光等ニアリ

ニタツフ双

皆焼

沸ルモ

沸ノナキモアリ

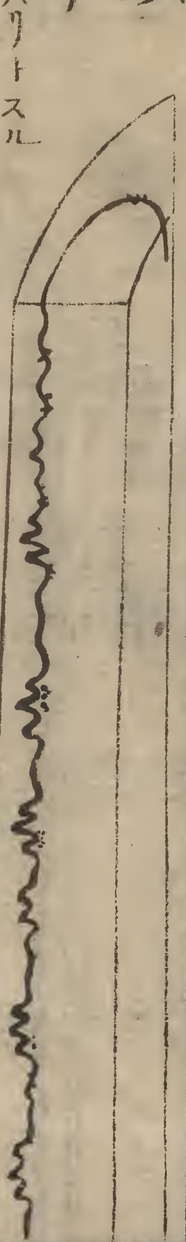
希ニ有分			
あり 行光 上	スルカ 嶋田 下	チクセン 左國弘 中上	あり 秋廣 中下
ビゼン 長義 中上 サカ文	ビンゴ 一來 下		あり 廣光 下
ヒラ延ス 門國 中上	ビンゴ 鞆 下	イヅミ 道永 下	京 長谷部 下
京三条 古則 中下	筑中 守津 下		ミノ 關 下 イロく
			紀州 國次 下 沸ズ

三本杉

サンボンスギ

沸サヾアリ

不ワチキウハリトスル

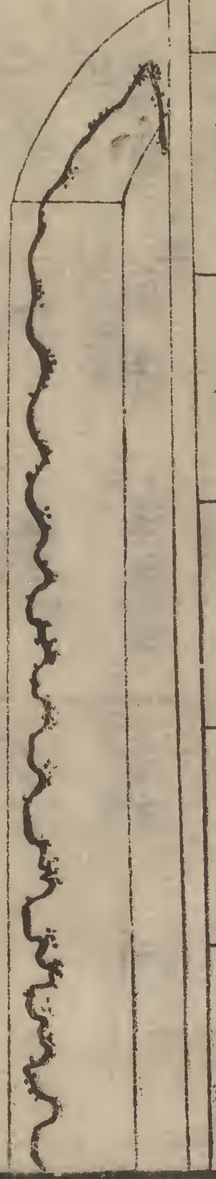


ミノ 無元 中下			
關 下			

グノメ乱

五ノ目

ナ佛ルモアリ
キバ焼モイフ



備前			
吉井 下	倫光 上		
兼信 中上	政光 中上		
關 下	基光 中上		
	基政 中上		
	未備前 下		

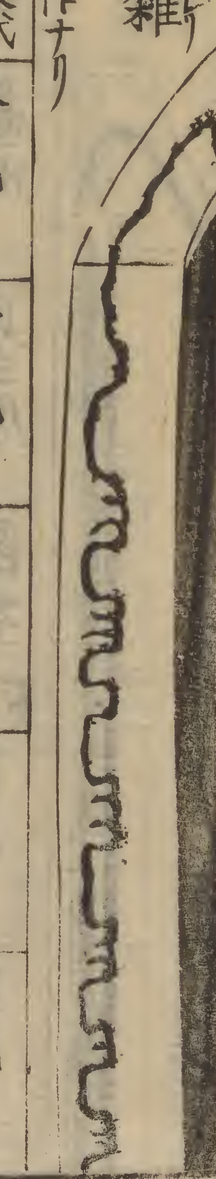
グノメ乱

佛ル

備前			
道永 下	倫光 上		
兼信 中上	政光 中上		
關 下	基光 中上		
	基政 中上		
	未備前 下		

グノメ乱

ニホヒフカク



備前			
藤嶋 下	倫光 上		
信長 下	政光 中上		
宇津 中下	基光 中上		
一乘 中下	基政 中上		
真景 中上	未備前 下		
顯國 中上 大乱モ			
未三池 中下 大乱モ			
寶壽 奥州 中下			
景長 中下			
石州物 中下			

グノメ乱

ニホヒスクナシ
各中下ヨリ下作ナリ

備前			
康光 中上	倫光 上		
盛光 中上	政光 中上		
家助 中上	基光 中上		
	基政 中上		
	未備前 下		

其外悉永ク備前モノ

グノメ乱

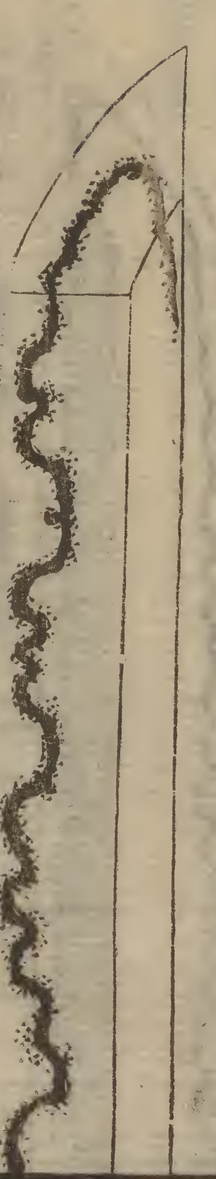
足雜

備前			
祐定 数代	倫光 上		
勝光	政光 中上		
清光	基光 中上		
宗光	基政 中上		
則光	未備前 下		
法光			

其外未備前数人アリ

大グノメ乱

ヨク沸ル



備前			
末高田	倫光 上		
末關	政光 中上		
末波平	基光 中上		
	基政 中上		
	未備前 下		

備前			
信國 中上	倫光 上		
後志津 中上	政光 中上		
兼定 中上	基光 中上		
兼貞 中下	基政 中上		
關 中下	未備前 下		
石州物 中下			

京			
信國 中上	倫光 上		
後志津 中上	政光 中上		
兼定 中上	基光 中上		
兼貞 中下	基政 中上		
關 中下	未備前 下		
石州物 中下			

関伝			
三王 下	倫光 上		
一乘 中下	政光 中上		
辰房 下	基光 中上		
	基政 中上		
	未備前 下		

大グノメ乱（ミダレ）
沸ルモアリ

小グノメ乱
沸細カニアリ
ニホヒフカシ

グノメ乱
ノタルヽ心ナリ
ヨク沸ニホヒ涼クスナガレアリ

小乱（コミダレ）刃（ハ）

丁子乱（テウジミダレ）
ニホヒフカシ
京物ハ沸多シ

丁子刃（テウジハ）
上ニテ変スル心乱レモ有
サカ心ニ至テ丁子ノ乱モ有
又涼ク乱入モアリ
志津ニ多シ
沸ルモ有
於佐ノホニテ分ヽシ

京	宗近	上々	大和	包氏	上	大グノメ乱	沸ルモアリ
備前	古備前	上々		尻掛	中上	小グノメ乱	沸細カニアリ ニホヒフカシ
	一文字	上		テンカイ	中下		
	吉家	上々		國吉	上		
	有國	上々		國村	上		
	了戒	中上		来國俊	上		
	安經	上々		安吉	上		
	實阿	上		吉貞	中上		
	長光	上		爲継	中		
	雲次	中上	石州物	高田	下		
	雲生	中上		貝三原	下		
	雲重	中上		図次	下		
	吉井物	中下		寿命	下		
	三池	上		無定	下		
	村正	下		海府	下		

倫前

京 菊作 上々 / 兼永 上 小業 / 古倫前 上々 サカマモ / 光忠 上々 / 信房 上々 / 則宗 上々 / 吉家 上々

京 吉家 上々 / 来國行 上々 / 助包 上々 / 長光 上々 / 守家 上 / 信房 上々 / 安則 上々 / 吉平 上々

京 定利 上々 / 來國俊 上々 / 國安 上々 小鍛 / 國經 上々 ヒロスケノ又 / 来國光 上々 / 國俊 上々 / 吉包 上々 / 守家 上 / 信房 上々 / 助宗 上々 / 真利 上

一文字類福岡住人吉岡住人此外數人有

京 國友 / 則國 / 宗近

京 吉光 / 來國俊 / 守家 / 當麻 大和 / 新藤五 あり / 神息 フシヽ / 貞末 ろく

京 國吉 / 來國次 / 保昌五郎 大和 / 景光 / 行光 あり 希ニハ少々モアリ / 金剛兵衛 チクセン / 頸國 ばつ

京 光包 / 來國光 / 尻掛 大和 / 景政 / 正宗 あり 希ニハ少々モ有 / 三池 チクゴ / 入鹿 紀州

京 了戒 少々モ有 / 信國 京 少々モ有 / 輙磴 大和テンカイ / 義光 / 雲次 / 延壽 ヒコ / 法成寺 / 景長 アハ

京 信國 / 義弘 戎中江 / 則重 戎中江 / 法成寺 / 海府

初心爲便覽アラ〳〵シ圖ヲ以テ分トイヘドモ又或ハ手癖ヲ見人ノ眼力ニ有夫ヲ目利トスベシ

外ニ其奴ノ立ヲ手癖ヲ見人ノ眼力ニ有夫ヲ目利トスベシ

○小股指之造ヲ以テ分事

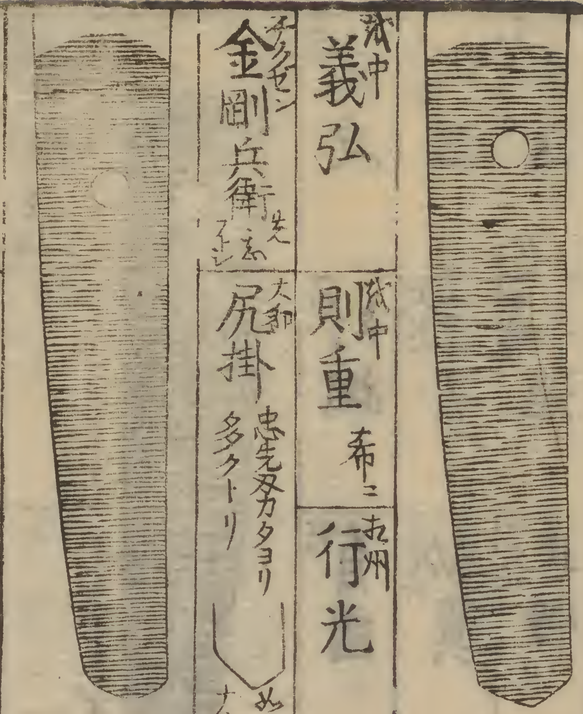
造スグ成分
大体

造反タル分
大体

備中 倫國	平安城物	京 長谷部	希ハ多クモ有	大和 包永	播ノ中嶋来
備前 貞宗	長義	備前 倫光		政光	基光
備前 雲重	左 希ハ二スクモ有	安吉		國弘	國資
備州 貞宗	廣光	眞景		爲継	石州物 希ハ多クスクモ
同 造スグ成モ反タルモ有分					
京 久國	来國光	大和 包氏		西蓮	行平
志津	金重	元重		吉井物	青江
一乘	辰房	嶋田		寶壽	月山
冬廣	宇津	藤嶋		信長	二王
貞宗 高木	信國	長谷部		来國次	左安吉

平造ノ長延タル物ハ尺ニ余リ小脇差ニアラズ一尺二三寸或ハ一尺五七寸モアリ

京 吉光	國吉	則國		宗近	吉家
来國行	國俊	来國俊		来國光	来國次
了戒	平安城物	京 長谷部	備州 中嶋来	来國光	来國次
友成	助平	包平		信房	延房
吉平	吉包				



濃中 義弘	則重 希ニ	備州 行光		貞宗 カ 関ノ	二王
金剛兵衛 先ヅ	大和 尻掛 忠先多カタヨリ多クトリ	藤嶋 上ニ同シ	信長 上ニ同	貞末 上ニ同 忠ナシ	辰房

○忠鑢見分之次第

横ヤスリ 但キリ沙モ

忠先釵形ノ分

横ヤスリ

忠先クリシリノ分

大和 包利
志津 ミノ
左國弘 チクゼン
神息 ブンゴ
加賀四郎 イヅミ
嶋田 スハラガ 先細シ

大和 包氏
金重 ミノ
大石物 チクゼン
高田 ブンゴ
冬廣 ワカサ
寶壽 奥州

大和 志千手院
關 ミノ
三池 チクゴ
恆次 筑中
新藤五 奥州
則重 筑中
顯國 ヒゼン
三池 チクゴ
廣光 奥州
宇津 筑中
安經 伯キ
延壽 ヒゴ
秋廣 奥州
法成寺 タチ
波平 サウシ 希
圖次 紀州

國友 京
正恆 ビゼン
貞宗 カ 奥州
勝手下リ横ヤスリノ分
忠先クリシリ

國綱 京
宗吉 ビゼン
三池 チクゴ
助眞 ビゼン
正恆 ツクレ

有國 京
助眞 ビゼン
正恆 ツクレ

兼永 京
吉包 ビゼン
教永 天石
貝三原 ビンゴ

信國 京
雲生 ビゼン
平安城 正眞

大和 當麻
忠先如形ノ双方ヘ多クヨリ 如是也

大和 未尻掛 上ニ刀
藤嶋 上ニ刀
石州物 上ニ刀 忠先

筋違ヤスリ
忠先鮫形之分

京 宗近
京 久國
京 光包
京 連磨

友成 刀
助包 ビゼン
信房 刀
近包 刀
則宗 刀
助宗 刀

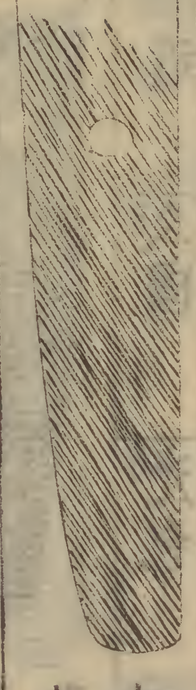
宗吉 刀
延房 刀
信房 刀
吉家 刀
吉平 刀
是助 刀

助包 刀
助吉 刀
助光 刀
光忠 刀
守家 刀
眞守 刀

長光 刀
景光 刀
兼光 刀
長義 刀
義光 刀
倫光 刀

真長 刀
秀乃光 刀
師光 刀
政光 刀
基光 刀
基政 刀

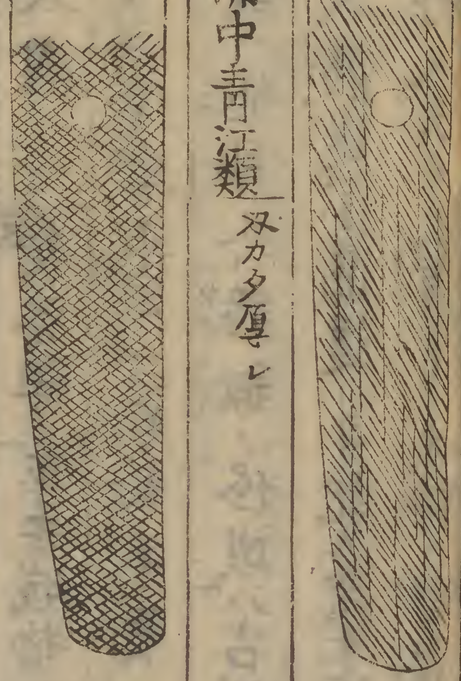
カヘクラ 正宗 先タチ細シ
カヘクラ 貞宗 先タチ細シ
カヘクラ 助眞 希
石州物 忠先双方ヨリ多クル 忠フトシ



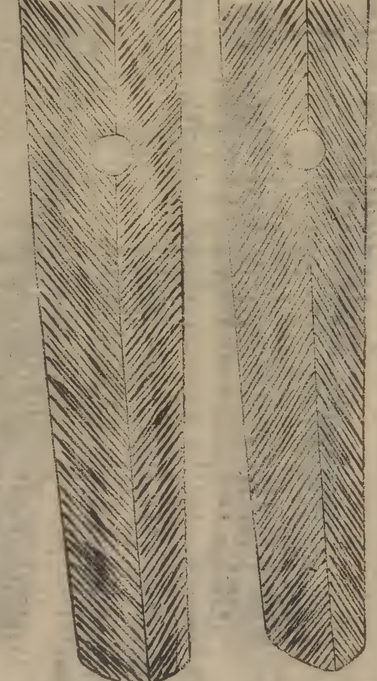
景政 ビゼン
助國 同
定秀 ブンゴ 先細シ
テカイ 大和
景長 イセ
久國 同
吉包 ビゼン
助國 ビゼン
西蓮 チクゼン 伯キ 人原真守
國安 同
則宗 同
雲次 同
實阿 チクゼン
有國 同
吉房 同
雲重 同
左 安吉
定利 同
信房 ビゼン
正恒 備中
行秀 ビゼン
吉貞 左 紀州藤實次 ブンゴ 行平
景秀 ビゼン
庁山物 備中
末三池 チクゴ

元重 同
吉井物 同
行平 ブンゴ 先ホソシ
道永 イヅミ 志ヲイレ
加賀四郎 イヅミ
波平 サカヒ 希
有國 同
吉房 同
雲重 同
左 安吉
定利 同
信房 ビゼン
行秀 ビゼン
吉貞 左 紀州藤實次 ブンゴ 行平
景秀 ビゼン
庁山物 備中
末三池 チクゴ

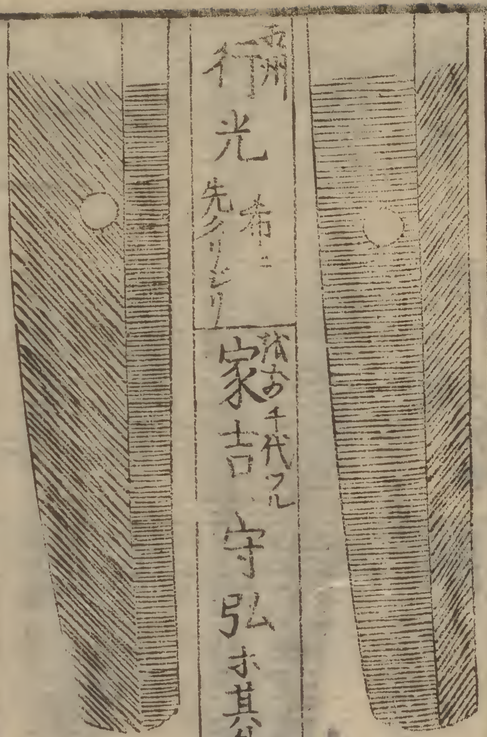
近景 同
國宗 ビゼン 備州
人原真守 伯キ
冬廣 ワカサ
大筋違ヤスリノ分
忠先クリビリ
敖永 チクゼン大名
末三池 チクゴ
真景 カヒ
紀州入鹿
重真 同
國宗 ビゼン 備州
人原真守 伯キ
敖永 チクゼン大名
末三池 チクゴ
真景 カヒ
紀州入鹿
奥州月山
紀州圖次
感景 同
景安 同
奥州月山
紀州圖次



備中青江類 ヌカタ厚シ
ヒガキヤスリノ分
忠先クリビリ
大筋違ヤスリ忠先クリビリ
鏟 セン スキノ上ヲ



大和 包氏
保昌五郎
末千手院
輪違 大和テンカイ 石堂物
兼氏
無信
包永包利 其外大和物
關 セキ
鷹ノ羽ヤスリ
忠先クリビリ
同 逆ヤスリ
備中 真 希ニ
青江 希ニ
宗近
波平一類
其外大和ニノ多シ
辰房 先ケン形 同氏
二王 先ケン形



いふなり。二文字のおくりなし。すべて大体は二字とのみ云ども、あるは一倶利迦羅（くりから）といふもの劔（つるぎ）に誌（しる）のまきつきたるを云ふ也

一本に此国行。若くは時二字にて。国俊と打。孫左衛門尉（まごさえもんのじょう）国行（廿八才）国俊（十七才）国吉（ママ）（ママ）孫左衛門尉国俊。新の作も孫左衛門国俊。歟（か）の作も孫左衛門尉国行の如（ごと）くなるべし。

一行平（ゆきひら）和泉（いずみ）の守（かみ）又永延（えいえん）の比（ころ）の人。鬼神（きしん）大（おおい）に忠（ちゅう）ありて。先（まず）敵（てき）降伏（ごうぶく）の後（のち）。国（くに）を行平に譲（ゆずり）給（たまい）しを。行平固（かた）く辞（じ）して受（うけ）ず。豊後国（ぶんごのくに）なる山里（やまざと）に住（すま）せ給（たまい）ける。ある時（とき）。鬼神（きしん）来（きたり）て。

なつかしや住（すみ）なれ初（そめ）てふ里（さと）の名（な）を

と詠（よみ）ければ。行平（ゆきひら）

ふるさとの名（な）をも忘（わすれ）ずほととぎす

と詠（よみ）給（たまい）しより。其（その）後（のち）行平（ゆきひら）の許（もと）へ。日（ひ）毎（ごと）に来（きたり）て。

豊後国（ぶんごのくに）なる山里（やまざと）に住（すま）すとのみ

と詠（よみ）ければ。行平（ゆきひら）

ふるさとの名（な）をも忘（わすれ）ずほととぎす

と詠（よみ）給（たまい）しより。其（その）後（のち）行平（ゆきひら）の許（もと）へ。日（ひ）毎（ごと）に来（きたり）て。

豊後国（ぶんごのくに）ある山里（やまざと）を

又定秀ハ源治小刀ハ寸も行平九寸の時なれハ数ヲ犯の事有ものゝ豊後より都ニ下りて月山と表に行平と打事おうといよ〳〵数おゝくありの数多あり古ヲ揚テ拍子おうく物ニくるゝ事あり其中ニ出さるゝくの強切ニくるも有。行安造忠近も兼採成不有ものゝ一ツ〳〵銘ふるさらふ拘ヲ戒。西蓮。普門。天蓋物。兜掛。千手院其外佛法ニ用ゐる文字拵ヲ多ニくるゝ。むしろ不姫と乃ニくさ〳〵ぐさや。むしろ不姫と乃ニくさ〳〵ぐさや。むしろ不姫と乃ニくさ〳〵ぐさや

なる迫てくそ不ゐひと共に長けい。裏肉。拓来等にようて
いつぐ代の作なる有を故二故付ようの近代を百年余に及て
五七故のくもも住せさすれ古刀を貴するの理有べし古刀まて
切くう疵ハ一すみても金ぐくくしく新刀まで切くう疵ハ二すこまでも
金安くともひようひ作よ疵の金ぐくさい古刀の徳成べし
古刀の業なくみ細く氏新刀の業及大変ようも切う事一
寸ゑやうく其事のこぐくうる事世人多も其作くてようく
作りやう乳又もすく又も皆て丸のおとくなり
さもく有とゐへ共。大体此ん体持ふ法てことのありおるひ新刀を
押宿して古刀。なれ事近代多し古刀ハ浄く押てそ焼及
変せ代一文字ゐ一文字とも丸も作る事ハ古刀のやさ
作りやう乳又もすく又も皆て丸のおとくなり
さもく有。是新刀の所の作刀の別ある有り

一新刀共鍛と旧ゐ集後其の二依名ようく違雑ゐ似ようも按ゐ鍛を
相もそゐ鍛と沸ひ造るの作くやうの作ハ今日造るとも貴代ようて有ゐ
例ゑもやり光ゐ細ゐ一古刀ハ今ハ年数つりて火花次事ゐ多もりて
五百年八百年と歴て殊の美作ハ一味の指ゐあるを貴翫をようく例て
其ゐことを指をそ鍛を沸ひ造ゐ事ハうしてひさゐおら新ど
代くのかけ。刀鍛を作ゐ事ハ名人たりとも
有べし沸造ゐ日利を教ひ人ハなをでか造ゐ事ハ名人たりとも
古き刀の日利するゐハ別ゐ教ハりおくていゐかくりのと多べし

一日利とゐうの全体ハ古刀の美也新刀ハ作ゐ事ハ安さ
りのくゐくい疵ありて忠ようくゐのハ入名を貴教を待ニ新刀の忠
時代近けをいようく似せる押形ゐ違ゐ事ありく。各例をようする気を以て推察
新刀ゐ作ゐ事ハ名人たりとも
なりといふ人ありとも似せようく似ようてようく成て似せ
忠のさ作ゐを古代日利のいひ作ハ安くゐ事ハり新刀
る下ありようく似せようゐ此後数年を経ようゐ
まりおりのゐうべし

也別新刀の上作と云ふ物あり當時澁川のうち有古刀の
ごくよくうつして自作せる人も有宜く似てよく新刀の
古刀より新刀の如くに見ゆるこそ妙と成べし。和泉守兼定と銘の
ありて助廣。奥改。拵いかもよくいさぎよく有。是と新刀の
見ゆる物也。作かくた男山と銘して。なかなか
成べし。又和泉守藤原兼定と銘ありて。多摘成し。人も年數
又古刀の時代古く殊あまりよく見ゆる。雅房の
古く成。その後に作て後古刀の用をなす程に作る人多し。
似せんとて。常の刃の用ふ者なる故なるべし。
のごとくして生ぬのあり。

○名劔吉劔の事

一昔より名劔とよぶ物。其作人かぎりなき地鉄湯の自然ふう
和持する人まゝあり。名物和泉守兼定。
こして言正しさし面うつくしく
面体の影。劔是をそこなひ
理をもつて名劔共ふ
一劔相吉凶の事　運祿福德壽命教病劔災劔水火分つ者
もつてうらなふはおろそかなく其人の運奥深
本行正月利して於家事
家と其人の魂の
あるごとくして。好ると吉劔を
へ好ともく其劔も其家と
家と守ふの孫と伝へて
ごとくこと性ともふ。行の

已と怪くもちこたえ何の辜うなべらぶ其家滅るを時い吉凶と出。辜まとる時ハ福力ハ凶と吉凶を求て心ハ正しくもちこたえ福力寿命宰運甚うとさる。凶を慈すりのなら吉凶ハ悪人の道と成べし。凶相とハ剣の全体をよろ辜をいへども。ようく目利のかなくて及よべさるわべ凶乃吉凶を論るも他の上下を分つも別なるべらべ。凶相といふも目利といふも同意と目利を以て是と分ら全体のすべれるを悪と云ふ意あなると代よりて他流ハ中るをのく目利をいたすまでく吉凶とのみ論ずる凶相相ふあらべお用を二の術と心ふ。剣ハ地五行と以て成就するりのあれい人力のさるべし。凶を善のく出して名剣ハ出べきはかざらべ。日人ハ善悪あり力ハ吉悪あるを人ハ呂しく人を好るも力と得るも同意と云ふ悪ハ分べ繙窓虫夕れ黄鳥。止二于丘隅一その止まるハをもらを已をもとく

一凡刀剣ハ神代の始より国家を治る宝なりしかも辜ハ人ハく初る不知。拾ふ代今用るおの刀剣。天国と始として凡千　年余ハ及べ其いふハ人ハ凶ハ凶ハ凶

一寸の善根をつゐ人あり武士なれば
ぐるゝ其人皆のそゝき面伏すべく吉田いづくさるや

一八幡大菩薩。南無阿弥陀佛。蓮花。梵字ほの彫抱ある不吉の指
もゝさらの人皆念佛い朝夕唱へ家内ふ佛檀ありとても人を切り
道具。双とゞめ置ゝ其ゝ理と考へ勘くの分と脩家を齊叙ふして
三種の神寶の理とりゐて万民給くの仁勇のミッハかゝこゝもつさなれも支くれくるれゝる本の神寶ゐ
心の玉。心ゝ剣。心の鏡。此あゐひとそゝべ。明徳用ふありくく弁
ゐらそる〳〵弥〳〵朝夕万ゐ唱ゐ此佛をうそゝくゝ叙の道とそゝべ。已を切るべく
和歌ゝる玉鉾の道ふふ海そゝ細を信すべし

予多年芭蕉門の俳道ゝあそよ万民日用の制度ふて拙ゝこゝろ作てゝ書くも
一事を除孤ゝ記てゝる叙ゐゝゝ好ゝゝ作ゝゝゝゝ

ゝゝ天の糸ゝ経ゝる處ゝ中ゝゝあゝ

三居菴古音題